2017

第 27 回守谷市青少年海外派遣事業報告書

平成 29 年 8 月 2 日(水)～8 月 10 日(木)

守谷市

目　　次

- 守谷市長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
- 守谷市国際交流協会会長あいさつ・・・・・・・・・・・・　2
- 第 27 回守谷市青少年海外派遣団員名簿・・・・・・・・　3
- 事前・事後研修日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
- ホストファミリー名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
- 海外派遣日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
- ドイツ・マインブルク市周辺地図・・・・・・・・・・・・　7
- 思い出の日記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8～14
- 派遣団員報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15～41
- マインブルクの新聞に掲載された記事・・・・・・・・・　42～43
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　44

平成 29 年度青少年海外派遣事業を終えて

守谷市長　松丸　修久

第 27 回守谷市青少年海外派遣も,多くの皆様の御協力により無事に終了し,マインブルク市への青少年の派遣は，この夏で 9 回目となりました。ライザー市長はじめ，派遣団を快く迎えてくださったマインブルク市民の皆様，いつもと変わらぬ温かいおもてなしに，心より感謝の意を表したいと思います。

今回，参加された皆さんは，マインブルク市民の心からの歓迎に触れ，多くを学んできたようです。事前研修の最終日に行われた壮行会では，マインブルクに行く心構えや，まわりの人々への感謝の気持ちが芽生えていることが感じられました。その学びを糧として，ホームステイ中は言葉の違いを超えて意思を伝え合うことの喜びと大切さを改めて感じたことでしょう。また，バイエルン州の豊かな自然や文化を目の当たりにし，世界観が広がったことと思います。

団員の皆さんにはこの 9 日間を通じて得た貴重な体験をいかし，自らの夢の実現に向かって歩んでいってもらいたいと思います。そして，今後もホストファミリーとの交流を大切にしていただき，異文化への理解と友情の絆をより一層深められることを期待しております。

最後になりましたが，本事業を実施するにあたり御協力をいただきました守谷市国際交流協会をはじめとする関係者の皆様に心から感謝申し上げ，御挨拶といたします。

さらなる友好の発展を願って

守谷市国際交流協会会長　小川　一成

第 27 回守谷市青少年海外派遣事業が，無事成功のうちに終えられたことをお喜び申し上げます。

平成 2 年にこの事業が開始されて以降，当協会は若い世代による市民交流を推進し，市の国際交流の発展に寄与するため，全面的な協力をしてまいりました。

守谷市の代表として，国際交流への関心と意欲をもった若者が異文化の中で過ごし，ドイツの方々との触れ合った経験はこの上ない財産となったことでしょう。今回，マインブルク市を訪問し，市民の皆さんの気持ちに触れたことで，ドイツに親近感を覚えるとともに，お世話になったホストファミリーへの感謝の気持ちを胸に帰国したことと思います。これからもマインブルク市民の皆さんが来日する際には，派遣中に受けた温かいおもてなしへのお返しを協会も一緒に出来る様，また，益々両市の市民間の友好が発展することを願っています。

第 27 回守谷市青少年海外派遣団員名簿

●団員

氏名	ふりがな	学校	学年
桝田　はるか	ますだ　はるか	東洋大学附属牛久高等学校	高 2
森本　真菜	もりもと　まな	茨城県立牛久栄進高等学校	高 1
倉持　実咲	くらもち　みさき	茨城県立竹園高等学校	高 1
綿引　悠人	わたひき　ゆうと	茨城県立並木中等教育学校	中 3
太田　悠樹	おおた　ゆうき	守谷市立御所ケ丘中学校	中 3
横張　日菜子	よこはり　ひなこ	守谷市守谷中学校	中 2
稲本　光希	いなもと　みつき	守谷市守谷中学校	中 2
茂田　楓華	もだ　ふうか	守谷市立愛宕中学校	中 2
岡田　千穂	おかだ　ちほ	守谷市立御所ケ丘中学校	中 2
沼田　百音	ぬまた　もね	守谷市立愛宕中学校	中 1
長縄　真凜	ながなわ　まりん	守谷市立けやき台中学校	中 1
下之園　凌大	しものその　りょうた	守谷市立御所ケ丘中学校	中 1

●引率者

氏　名	ふりがな	所　属
猪瀬　雅俊	いのせ　まさとし	守谷市国際交流協会
大平　妙	おおひら　たえ	守谷市役所　生活経済部　市民協働推進課

事前・事後研修日程

事前研修①	6 月 17 日	土	14:00～20:45	和室 →学びの里
事前研修②	6 月 18 日	日	9:00～15:00	和室
事前研修③ （大使講演会）	6 月 24 日	土	14:00～18:30	大会議室
事前研修④	7 月 1 日	土	14:00～18:30	大会議室
事前研修⑤	7 月 8 日	土	14:00～18:30	大会議室
事前研修⑥	7 月 15 日	土	14:00～18:30	中会議室
事前研修⑦	7 月 22 日	土	14:00～18:30	中会議室
事前研修⑧ ・壮行会	7 月 26 日	水	9:00～17:00	大会議室
事後研修 （MIFA歓迎会）	8 月 19 日	土	9:00～17:00	大会議室 →学びの里

ホストファミリー名簿

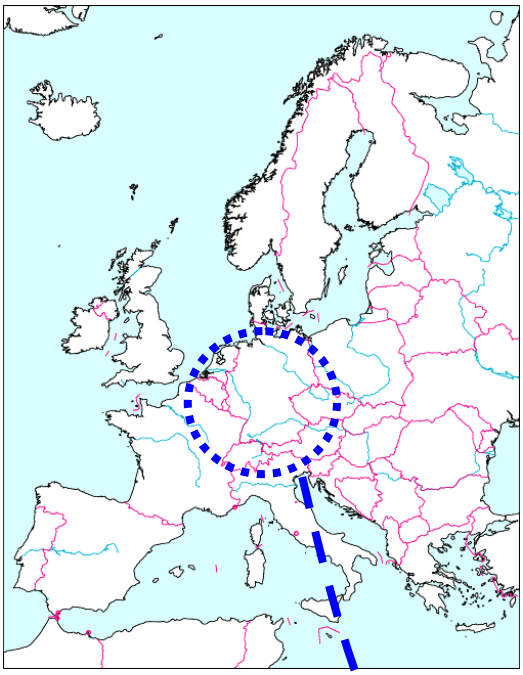
平成 29 年度　派遣団員	ホストファミリー
沼田　百音 森本　真菜	シェーンフーバ家
倉持　実咲	バセンゲ家
茂田　楓華	バッハナ家
太田　悠樹 長縄　真凜	ファルケ家
綿引　悠人	クッファ家
桝田　はるか	ホーフバウア家
下之園　凌大	ラングウィーザ家
横張　日菜子	コンザック家
岡田　千穂	エッカ家
稲本　光希	ウィマー家
大平　妙	S. シェーンフーバ家
猪瀬　雅俊	ヴィルケ家

海外派遣日程

平成29年青少年海外派遣派遣スケジュール

日付	曜日	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	備考
8月2日	水	8:00 守谷駅集合 → 羽田空港へ移動				12:35 LH715便 にてミュンヘンへ（約 12時間のフライト）					17:40 ミュンヘン 着 空港→マインブル クへ		19:30 夕食 （シェーンフーバさ んのペンションで）			・夕食はピザ ・マインブルクのライザー市長が挨拶 ・ホストファミリーも出席 ・夕食後はホームステイがスタート！！
8月3日	木		9:30 ～10:30 市長表敬訪 問		ホストファミリーと過ごす						17:00 夕食 BBQ					・肉と飲み物はマインブルク市が用意 ・サラダ，野菜，パン，ケーキなどはホストファミリーが持参
8月4日	金		7:00 ～ 20:00 ノイシュヴァンシュタイン城ツアー 9:30 到着 → 10:00 ノイシュバンシュタイン城見学 → 12:00 シュタインガーデンへ → 13:00 ランチ・ヴィース教会 → 15:00 ランツベアクへ → 18:00 マインブルクへ出発 → 20:00 マインブルク到着												・ホストファミリーは参加可能 ・バスで朝食，果物，ブレーツェル，お菓子はマインブルク市が用意 ・飲み物はバス内で購入可 ・ノイシュヴァンシュタイン城の見学は日本語で
8月5日	土	ホストファミリーと終日過ごす														
8月6日	日	ホストファミリーと終日過ごす														
8月7日	月			10:00 ～ 15:00 レーゲンスブルクツアー 10:00 現地集合 → 10:15 市内ウォーキングツアー → 11:30市街散策 → 13:00 旧市庁舎ツアー → 14:00 市街散策 → 15:00 解散												
8月8日	火	ホストファミリーと過ごす								16:00~21:00 フェアウェルパーティー 16:00~16:30 練習 17:00 パーティー開始						・フェアウェルパーティーは音楽学校で開催 ・軽食と飲み物はマインブルク市が用意
8月9日	水	8:30～13:00 ミュンヘン観光 9:30 観光ツアー 11:00オリンピアモール（OEZ）で買い物					13:00 ミュンヘン 空港へ			16:15 ミュンヘン発 LH 714便						・ホストファミリーは参加可能 ・ミュンヘンの観光ツアーは日本語で
8月10日	木	11:30 羽田空港着					14:00~15:00 帰国報告会									

ドイツ・マインブルク周辺地図



ドイツ連邦共和国
Bundesrepublik Deutschland

面積　約 35 万 7,121 k㎡
人口　約 8,218 万人（2015 年現在）
首都　ベルリン（Berlin）

バイエルン州
マインブルク市
Stadt Mainburg

面積　約 61．65 k㎡
人口　約 14,900 人（2015 年末現在）

思 い 出 の 日 記

6/17　事前研修①　・　6/18 事前研修②

この日，守谷市の代表として派遣される 12 人が初めて顔を見合わせました。緊張で不安な顔をしている人もいれば，さっそく笑顔で挨拶をしている人もいて「これからこの仲間と頑張ってドイツに行くんだ」と胸がドキドキしたのを覚えています。その後，グループに分かれてみんなでお好み焼きを作りました。協力してお好み焼きを作るのはとても楽しかったです。小さな失敗は笑顔で励ましたり，困ったらグループ全員で考えたりする姿が多く見られました。そして時間が経っていく程，緊張していた人にも笑顔が出てきて，だんだん心の壁が打ち解けてきて，「この 12 人がドイツに一緒にいく仲間だ！」と思えた日でした。

次の日の研修で初めてのドイツ語を習いました。日本語とは違う発音やイントネーションに少し苦戦しつつも慣れていけるように頑張りました。先輩方も来ていただき色々なアドバイスなどをしてくださり，改めて「私は本当にドイツに行くんだ！」と実感し，8 月 2 日の出発の日が待ち遠しくなりした。

（稲本　光希）

6/24　事前研修②（ドイツ大使講演会）

この日の研修は，MIFA が主催するドイツ大使講演会に参加する，という内容でした。

ドイツ大使の考えるこれからの日本との国際交流のこと等，たくさんのお話を聴く事が出来ました。なかでも，エネルギー供給についてのお話では，日本で 2011 年に起きた東日本大震災の影響から，ドイツでも反原発の傾向が強まり，2022 年までには脱原発を完全なものにしようと取り組んでいるということを知りました。また，そのために再生可能エネルギーに目を向けて発電所などを増やしているけれども，騒音が問題になり，発電量に地域で偏りがあるなど課題が多く残っているということも知ることが出来ました。大使のお話を聴いて，ドイツと日本はお互いに影響し合っているのだと感じました。

その後の交流会では，ソーセージやパンなどのドイツ料理を味わうことが出来ました。さらに大使と直接，研修で習ったドイツ語での挨拶を交わして握手をすることが出来ました。大使のドイツでお勧めの場所や食べ物，好きな日本料理も教えていただきました。

この講演会を通して，ドイツの方のあたたかさを改めて実感しました。ホームステイに行くにあたってとても良い経験になりました。

（倉持　実咲）

7/1　事前研修④

出発の日まであと１か月。まず，現地でよく使うドイツ語やホストファミリーに言えるようになるべきドイツ語を練習し，ドイツでのエチケットをルイーザさんに教えてもらいました。次にホストファミリーに自分の家族を英語で紹介する練習をしました。お互いの英語での家族紹介を聴き，間違えている所やより良くするためのアドバイスをしました。

その後は，6 年前から守谷市で生活し，子育てをしているアメリカ人のミラーさんが特別講師として研修に来てくれました。短い時間でしたが，とても明るく素敵なミラーさんから，海外で楽しむコツをたくさん教えてもらいました。

最後にフェアウェルパーティーのゲームやショーの内容を決めました。リーダーを中心にみんなで意見を出し合い協力して活動できました。

事前研修４回目で団員の仲もどんどん深まり楽しい研修になりました。

（茂田　楓華）

7/8　事前研修⑤

だんだん皆とも慣れてきて第５回目の研修となった日は，ドイツの多文化共生についてルイーザさんが教えてくれて，ドイツでの生活等について学びました。休憩時間には団長さんが作って下さった軽食を食べて，皆が元気になった後はフェアウェルパーティーの練習をしました。だんだん皆がまとまってきて，リーダーを中心に一つひとつ確認しながら進めていきました。

最後にはみんなが楽しみにしていたホストファミリーの発表もあって,「みんなはどんな家に行くの？」と，お互いのホストファミリーの家族構成などを見せ合いっこして盛り上がり，ドイツへ行く楽しさが増していきました。

（岡田　千穂）

7/15　事前研修⑥

この日はまず初めに，今回の海外派遣の添乗員をしてくださる三田さんが，海外旅行について説明するため来てくれました。三田さんは添乗員経験も長く，海外旅行についてとても詳しいので，私たちの細かい質問まで丁寧に答えてくださいました。

その後,フェアウェルパーティーの練習をしました。事前研修６日目となっていたので，団員一人ひとりの気持ちが段々と一つになっているのがわかりました。また，研修の終盤には，団長の猪瀬さんが皆のためにビーフシチュー作ってきてくださいました。とても美味しくて，その後の研修も頑張れました。

次に猪瀬さんが作成してくれていた，ドイツ語テストで皆のドイツ語の習熟度を確認しました。毎週少しずつ点数が上がってきていて，一人ひとりの意識が高くなってきているなと感じました。最後は守谷市の良いところ紹介の練習をしました。それぞれ守谷市の自分が一番好きな場所や物を紹介できるようになりました。その後の質問にも皆スムーズに答えられていました。とても有意義で楽しい六日目の研修でした。

（桝田　はるか）

7/22　事前研修⑦

毎回練習しているフェアウェルパーティーの練習も本番のようになってきました。ゲームでは団長さんのドイツ語の説明とともに進められました。What we like show！ は 1 人が終わるごとに拍手があり，完成度が高まりました。

今回は出国日が近づいてきたため，荷物確認がありました。みんなのお土産を見ると，用意している物もそれぞれ違い，個性が出ているなあと思いました。

午後 5 時ごろから，8 年前にドイツへ行った小岩千華さん，貴山楓子さんが来てくれました。ドイツで困ったことやドイツへ行った後から今までの進路や留学のことを話してくれました。私は中学生なので大学の話はよくわかりませんでしたが，将来留学をしたいと思っていたのでとても参考になりました。

（横張　日菜子）

7/26　事前研修⑧・壮行会

この日は，主に『What we like show！』 の通し練習とサンキューメッセージの練習をしました。『What we like show！』 の練習は，すでに何度も行っているのでみんな慣れた様子で黙々と練習に励んでいました。サンキューメッセージ の練習では，みんなで誤字脱字がないか確認をし合いました。中には，メッセージの内容が変で思わず笑ってしまうようなものもありました。

また，壮行会では事前研修の集大成として，壮行会に来ていた各団員の保護者，中学校の先生，松丸市長，橋本副市長，ＭＩＦＡの小川会長，市役所の担当者の皆さんに『What we like show！』を見ていただきました。

また，その後は各団員の意気込みを話すことになり，かなり緊張していましたが，それぞれがドイツへの思いを熱く語りました。

（下之園　凌大）

8/2　出国日

さぁ，今日は待ちに待ったドイツへ出発です！この仲間に出会ってから 47 日。みんなで協力してこの日を迎えました。ルフトハンザ航空でのフライトは約 12 時間。初めて飛行機に乗る人もいました。離陸の時はみんな目が輝いていました。

機内では，ゲームをしたり映画をみたり，眠って疲れを癒したり…。みんなリラックス状態で過ごしましたので，12 時間は意外と短く感じました。着陸の直前に見えた空から見たドイツ。これから 9 日間，ここで過ごすと考えると，とてもわくわくしました。

到着後は，シェーンフーバさんのペンションでのピザ！！時刻は夜の 9 時でしたが，美味しくて沢山食べてしまいました。そしてその場で初対面し，ホストファミリーとの会話にみんな緊張していました。夕食後はホームステイ開始です。 明日から 9 日間頑張ろう！という気持ちでいっぱいになりました。

（沼田　百音）

8/3　表敬訪問・8/4 ノイシュヴァンシュタイン城見学

8 月 3 日の午前中は，マインブルク市長表敬訪問を行いました。日本から引率してくれた大平さんと猪瀬さんからマインブルク市へ記念品が渡されました。どんな記念品なのか事前に聞いていなかったので，いかにも日本のもの！と言わんばかりの，鬼瓦であったことに派遣団員一同そろって驚きが隠せませんでした。

その日の夕食はマインブルグ市が企画してくれたＢＢＱでした。団員全員が早くもホストファミリーと打ち解けていました。

ＢＢＱの最初は各家庭で集まり食事をとり，そのあとはみんなで遊びました。サッカーやバトミントンをして，親交が深まった 1 日だと感じました。

翌日は，有名なノイシュヴァンシュタイン城にホストファミリーも含めた全員で行きました。道中では馬車通りに皆興奮していました。しかし，その場所は蜂が多く，私を含め何人かが刺されたと後で聞きました。幸いなことに全員軽い虫刺され，という程度だったので，これもいい経験になったと思うようにしました。そこから 3 日間，各自のホストファミリーと過ごしました。

（太田悠樹）

8/5-7　ホームステイとの行動

（派遣団員報告書を参照）

8/8　フェアウェルパーティー

この日はマインブルクの人たちとのお別れ会，フェアウェルパーティーの日でした。

このパーティーの会場は，私たちが想像していた以上に小さく，本番までのわずかなリハーサルでスタートの位置や立ち位置を考え直しました。

団長の猪瀬さんがマインブルクの皆さんへドイツ語で挨拶するところから，私たちの出し物が始まりました。この時点で団員たちは緊張していましたが，ホストファミリーが楽しんでいる様子が伝わり，私たち団員も徐々に緊張が解けていきました。

それぞれの団員が得意なこと，好きなことをメドレーリレー形式で発表する，『What we like show！』の時には，会場がとても楽しい雰囲気で包まれ，団員みんなが汗だくになるほど，張り切って演じ，とても盛り上がってもらえました。

私たちのショーで盛り上がってもらえたのは良かったのですが，その後はホストファミリーに向けた，これまでのホームステイでのお礼の気持ちを手紙にした『サンキューメッセージ』を読みました。しっとりと手紙を読む雰囲気ではなかったのですが，バックミュージックが流れ，派遣団員が順番で手紙を読んでいるうちに，涙が出てきてしまい，ホストファミリーとハグをした時には大号泣してしまいました。

このフェアウェルパーティーの最後の食事会では，これまで以上にホストファミリーとの距離が縮まったように感じました。その時の食事会は雨でしたが，私たちはマインブルクの子どもたちと走り回って遊んだり，サプライズの演奏に合わせてみんなで踊ったりしました。

（森本　真菜）

8/9-10　帰国日

帰国日の午前中は，ミュンヘン観光をしました。妖精の城，ニンフェンブルグ城や，青空市場，マリエン広場，オリンピアモールなどを周りました。

午後はミュンヘン空港に行くと，すぐにホストファミリーとのお別れの時間になってしまいました。最後にホストファミリーとお別れをして，「また今度は日本で会おう」と約束して飛行機に乗り込みました。

帰りの飛行機の中で，私はずっとホストファミリーのことを考えていたら，夢の中までホストファミリーがでてきました。

11 時間ほどのフライトを終え，日本に帰ってきました。羽田空港でルイーザさんが出迎えてくれました。モノレールに揺られながら秋葉原に着き，みんなでおにぎりなどを買い，TX に乗って守谷に帰ってきました。守谷駅で今度は川﨑さんが出迎えてくれました。

その後，市役所で帰国報告会ではこの海外派遣で感じた想いを松丸市長や保護者を前に発表し，みんなで今回の旅を振り返りました。

（長縄　真凜）

8/19　事後研修

8 月 19 日には，事後研修がありました。事後研修では，主に今までのことを振り返りました。

初めに，市役所の方が今後ドイツに行ったことがどのように生かされていくのかといったことを，今までの経験の中などから話をしてくれました。その時には，ドイツに行ったことが，将来色々なことに発展していく可能性があるといったことも教えてくれました。

それから，ドイツに行って不思議に思ったことや面白かったこと，驚いたこと，困ったことなどを全員で話し合いました。全員で話し合うことで，自分が気付かなかったことにも気付くことができました。

また，その後はＭＩＦＡの方々主催の今年にドイツに行った青少年海外派遣メンバーの歓迎バーベキューを開催してくれました。そこでは，歓迎してくれた先輩派遣団員やＭＩＦＡの方々と海外派遣のことやドイツのことなど，様々なことを話すことができました。

（綿引　悠人）

派　遣　団　員　報　告　書

桝田　はるか

森本　真菜

倉持　実咲

綿引　悠人

太田　悠樹

横張　日菜子

稲本　光希

茂田　楓華

岡田　千穂

沼田　百音

長縄　真凜

下之園　凌大

猪瀬　雅俊（団長）

大平　妙（引率者）

私がドイツで挑戦したこと

東洋大学附属
牛久高等学校
2 年　桝田はるか

私は，ドイツでの会話は簡単なあいさつを除いては，英語で会話することに挑戦しました。英語の単語力が足りていなかったので，調べながらでしたが，自力で文章を繋げて会話をしました。

ホストファミリーの子は同じ年頃の子で，コミュニケーションを取りやすかったので，親しくなれました。ホストマザーとファザーは英語があまり堪能ではなかったので，猪瀬団長に作ってもらったドイツ語のテキストを参考に，朝昼晩の挨拶と，食事の挨拶，ありがとうはドイツ語でするように心がけていました。初日の夜，ドイツ語でお休みなさいとホストファミリーに言ったらとても喜んでくれました。

ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは，お父さん，お母さん，27 歳のお姉さん，私と年が近いアナの 4 人家族でした。お父さんは，車関係の仕事をしていてとても忙しそうでしたが，家で食事をする時は一緒でした。お母さんは，写真を撮ることが趣味なようで，写真撮影をたくさんしていました。お父さんとお母さんとは英語でのコミュニケーションが難しかったのですが，毎日「楽しかった？」「おいしい？」など，声をかけてくれて気を遣ってくれて，とても優しかったです。

お姉さんは，英語がすごく上手なので，ドイツ語を英語にわかりやすくしてくれました。

妹のアナは私より一つ年上なので，年が近い分たくさんコミュニケーションをとることができました。アナは昨年日本に来ていたので，日本の好きなものについてなどを話すことができました。いとこのレアは茂田楓華さんのホストファミリーだったので，アナとレアと茂田さんと私の 4 人で行動を共にすることが多かったです。

大変だったこと・失敗したこと

事前研修でドイツ人は朝シャワーをすると聞いていたので，気を遣って朝シャワーを使わせてもらっていたのですが，数日後，私のホストファミリーは夜に入ると聞き，とても驚きました。もっと早くに分かったら，プールに入った後シャワーに入りたかったと，今更ながら後悔しています。

そして，ドイツは朝食が少なくてとても驚きました。昼ご飯まで常にお腹がすいていました。また，ドイツでは冷たい飲み物があまりありませんでした。常温の物がとても多かったです。普段冷たいものを飲みなれている私にはとても辛かったです。

帰国後，お土産にもらった生のホップを何とかして食べなくてはと思い，天ぷらにして食べたのですが，あまりの苦さに驚いて，ホストファミリーのアナに連絡して聞いてみたら，ドイツの人もホップはあまり食べないようで驚かれました。どうやら記念に持たせてくれただけだったようです。

忘れられない一生の宝物

私はドイツに行ってたくさんのいい経験をしました。不安もあって日本を発ちましたが，ミュンヘン空港に着いた瞬間，ホストファミリーのアナをすぐに見つけることができました。そして，アナから挨拶に来てくれて，少し緊張がほぐれました。アナは私より 1 歳しか年上ではないのに大人っぽいと思ったのが第一印象でした。その後ホストファミリーの家に行き，自分の部屋を案内してもらった時はほっとしたのを覚えています。2 日目の表敬訪問で皆に会った時，皆もまだホストファミリーとまだよく話せていない，打ち解けてないということを聞き，私だけではないのだと少し安心しました。その日の午後，アナと二人になる時間が少しあり，そこで初めていろいろ話して少しずつ打ち解けていけたように思えます。その後のバーベキューでは大勢で遊んだり話したりする中で，皆とも仲良くなっていきました。

3 日目は楽しみにしていたノイシュヴァンシュタイン城に行きました。そこはシンデレラ城みたいで，とても綺麗で感動しました。この日の帰りあたりからアナと従妹のレアと仲良くなってきました。次の日から 3 日間は自由行動だったので毎日朝から夜までアナとレアとレアの家にお世話になっている団員の茂田楓華ちゃんと私の四人で遊び過ごしました。レアの運転でプールやショッピングや友達の家に連れて行ってもらい，楽しい日々を過ごしました。家族ともガーデンパーティーをしました。親戚一同が集まって庭でバーベキューをしたのですが，親戚の多さや，国籍の違う人もいてびっくりしました。皆いい人達だったのでとても楽しいガーデンパーティーでした。次の日朝早くからレーゲンスブルクに行ったらみんながいてびっくりしました。街中が絵にかいたようなきれいさで感動しました。その後に行ったショッピングピングモールも日本と違う雰囲気が味わえてとても楽しかったです。あっという間に六日間が過ぎ，フェアウェルパーティーの日が来てしまいました。サンキューメッセージを読み渡したとき，アナが泣いてくれたので，私もつられて泣いてしまいました。それほどこの 6 日間は私たちにとって濃いものでした。

この海外派遣に参加して，私はもっと英語を勉強して，もっとコミュニケーションをとれるようになりたいと改めて感じました。来年アナが日本に来るときは，もっと話すことができるよう英語を勉強し，守谷を案内したいです。

私にとってこの 8 日間は忘れられない一生の宝物になりました。この経験を生かして，外国に携わる仕事をしてみたいと思いました。

私がドイツで挑戦したこと

茨城県立
牛久栄進高等学校
１年　森本真菜

私はドイツで色々なことに挑戦しました！その一つが事前研修で練習をしてきたドイツ語です。ドイツに行く前は英語でのコミュニケーションが基本挨拶しか覚えていませんでしたが，ドイツに行って会話をするうちにドイツ語をもっと知りたいと思うようになり，移動途中にもドイツ語を覚えました。ドイツ語で「英語を話せますか？」と実際に聞いて通じたときはとてもうれしかったです。

二つ目の挑戦は同じホストファミリーにお世話になった団員と日本のカレーを作り，振る舞ったことです。ご飯とルウ以外は現地の市場で買いました。市場のおばさんは人参を二本追加してくれてとても親切な方でした。家で必要な道具をジェスチャーや電子辞書で調べながら伝えたので，時間はかかりましたが無事カレーを作ることができました。親戚の方も来てくれて，おいしいおいしいと言ってカレーを５～６杯も食べてくれたのはとてもうれしかったです。

ホストファミリーの紹介

シェーンフーバ家は，母のヨーハナ，娘のヴァレンティーナと犬のロッタでした。他の家族に比べて少ないと思うかもしれませんが，私はそうは思いませんでした。なぜなら親戚が多く，毎日いろんな人が遊びに来たからです。お祖父さんとお祖母さん，伯父さん，ヨーハナは五人兄弟の一番上にあたるので，三人の妹さんに弟さん，妹さんの夫さんとその子ども，シリアの難民であり，ヨーハナの子どものようで，とても優しいお兄さんなど，とてもたくさんの親戚にあうことができ，みなさんとても親切にしてくださいました。

大変だったこと・失敗したこと

大変だったことは特にありませんでした。私の家には私ともう一人の派遣団員，そして添乗員の方も泊まっていて，わからない単語や文があっても添乗員の方が訳してくれたからです。でも，私は自分で考えて話したいという気持ちがあったので，添乗員の方がいない時にいかにホストファミリーと会話をし，仲を深め，自分をアピールするかということに意識しました。

失敗したことはせっかく会話ができているのに，返事を短くしてしまったことです。例えば「What's a beautiful castle！」「I think so too.」
これでは会話が終わってしまうけれど「Have you ever been to here?」と聞けば話が膨らんでいきます。とっさに「yes」というのではなく，次につなげることを心がけようと思い，後半は気をつけて過ごすことができました。

楽しいと感じた

ドイツの公用語ってなんだろう？何も知らずに申し込んだのに私は団員の一人になりました。12人の団員からリーダーと副リーダーを選出することになった際も「こういった，リーダーの役割はやったことないけど…」と思いながらも副リーダーに立候補しました。しかし，私は副リーダーとしての仕事を担ったことはほとんどありません。それは団員全員が個別に自分の役割を理解し，各自がそのとき必要な行動をとれていたからだと思います。そのため，私はみんなをまとめる立場を意識することより，「せっかく選ばれたんだから楽しまないと！」と考え，思う存分この派遣事業を楽しもうと思いました。

しかし，そんな思いとは裏腹に，私はホストファミリーの家に着いたとき，自分があまりにも話すことができなくて驚きました。その日の夜は部屋で反省して，明日は頑張ろうと決意しましたが，やっぱり聞きたいことや言いたいことが喉まで来て消えてしまいました。近くの場所に宿泊していた添乗員の方が，ホストファミリーと流暢な英語で会話し，仲良くなっているのを見てやきもちを焼きました。

さらに，その日の夜は派遣団員と各ホストファミリーの皆でＢＢＱをしましたが，他の団員たちがホストファミリーたちと親しく話しているのを見てとても焦ったことを思い出します。このホームステイというチャンスを利用しようと思い，添乗員の方の話の聞き方や反応の仕方をまねてみることにしました。そのおかげで話の内容もわかるようになり，ホストファミリーと上手に話すタイミングもつかめました。ＢＢＱの時に他のホストファミリーの子供達と遊ぶことによりこんな気楽な気持ちでいいのだと気付き，無駄な緊張が晴れたその日からホームステイがとても楽しく感じられました。

『自分が聞いた英語やドイツ語が通じる』，『相手の話す英語がわかる』といった現地でしか味わえないこの感覚が大好きになりました。ホームステイをしていた時のあのなんともいえない感覚はどう書き表せばいいのかわかりません。ホームステイで学んだ事も多すぎて書ききれませんが，『とにかくとっても楽しかった！』というのが私の簡潔な感想です。

私は，国が違う，文化が違う人と関わるのがこんなに楽しいことだとは思っていませんでした。また，私は今回のホームステイの事業で，楽しいと言うことはとても大事なことだと感じました。かっこつけた言い方になってしまうかもしれませんが，グローバル社会に活躍したい，国際交流で味わえるこの感覚をまたどこかで感じてみたいと強く思いました。

茨城県立
竹園高等学校
1 年　倉持実咲

私がドイツで挑戦したこと

ドイツではたくさんのことを挑戦してきましたが，ドイツならではのチャレンジの一つはビールです。

ドイツは 16 歳からビールが飲めるということなので，ビールに挑戦しましたがイメージしていた通り，やっぱり苦くてほとんど飲むことはできませんでした。ただ，ドイツの若者で人気のビールはグレープフルーツ味で，普通のビールよりはフルーティーで飲みやすそうでした。

ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは，お父さん，お母さん，姉，妹の 4 人家族で，7 匹の鶏と 2 匹の猫を飼っています。

お父さんの名前はウリッヒと言い，音楽関係の仕事をしています。ホームステイ中に一緒にどこかへ出かける事は出来なかったですが，毎回一緒に食事はとりました。お父さんの作ってくれたチリソースはとても美味しかったです。

お母さんの名前はカトヤと言い，大学で社会学を教えています。ホームステイ中は毎日色々な所へ連れて行ってくれました。また，家にいる時は体調や洗濯ものなどを気にかけてくれ，とても親切にしてくれました。

姉のレオニーは 19 歳の大学生です。レオニーとはホームステイに行く前から連絡を取り合っていました。出かけた先でも，家にいる時でも，常に私のサポートをしてくれました。

妹のアメリ―は 16 歳で私と同い年です。アメリ―は以前，守谷市にホームステイをした経験があり，日本語を少し話すことが出来ます。そのため，難しい英語の説明の時には日本語を交えて教えてくれたりしました。レオニーとアメリ―とはテレビゲームやボードゲームを一緒にやって盛り上がりました。

大変だったこと・失敗したこと

ホストファミリーの家に到着した初日の夜に何も考えずにシャワーを浴びた時，置いてあったものがほとんどドイツ語表記だったためどのボトルがシャンプーか，リンスか，ボディーソープか分かりませんでした。その時は誰かに聞くこともなくそのままどれがどれだか分からないままシャンプーをしましたが，次の日髪の毛がギシギシになってしまいました。

シャワーの使い方を聞くときにボトルの事も事前に聞いておけばよかったなと思いました。

また，ドイツは日本よりも洗濯をする頻度が少ない為，ホストファミリーは先に自分たちが洗濯をする日とその際の注意点を教えてくれましたが，とても英語を話すのが早かったので，聞き取るのが大変でした。

新しい発見　新しい経験　新しい出会い

今回のホームステイ事業に参加できるとなったときはとても嬉しく思いました。幼い頃から海外の文化や生活に憧れと興味を持っていた私は，実際にドイツのマインブルクへ行って多くの人に出会い接して，今後役立つような多くの経験をすることを楽しみにしていました。

ホストファミリーの家に到着した初日の夜は驚くことだらけでした。浴室には初めて見るシャワールームがありました。いつものお風呂のように何も考えずに入ると，目の前にあるボトル容器がすべてドイツ語表記で，どれがシャンプーか分からないということが起こりました。初日は緊張してうまく質問も出来ず，ボトルについて聞いていなかったのです。結局，私はボディーソープで髪の毛を洗ってしまったようで，髪がギシギシになり翌日は大変でした。洗濯も毎日しないことに驚き，ドイツと日本の生活の違いを実感しました。

寝る前などには，姉妹のレオニーとアメリ―とテレビゲームやドイツ発祥のボードゲームで遊びました。また大好きな YouTube を見ました。一緒に盛り上がってとても楽しかったし，嬉しかったです。3 人でお揃いのブレスレットを買ったのも思い出になっています。

また，私は日本のお土産として湯のみをプレゼントして，お茶をいれてあげました。ホストファミリーみんなが喜んでくれて，おかわりまでしてくれました。ホストファミリーのみんなや多くのドイツの方と接していくうちに，日本とドイツで言葉が通じないうえに文化が違っていても，それを快く受け入れてくれているということに気が付き，嬉しかったです。

特に思い出に残っていることは，ランツフートにショッピングに行ったことと，湖に行ってレオニー，アメリ―と泳いだことです。ランツフートは昔からある街で，伝統的な形のお店が並んでいて，とてもかわいかったです。大きな教会ではパイプオルガンのコンサートを聞きました。広い教会の中に大きな音が広がっていて本当に素晴らしかったです。湖では 3 人で競争をしたり，鬼ごっこをしたり，石投げをしました。とても水が冷たくて 3 人で叫んで震えていたけれど，それもとても面白かったです。

マインブルクで過ごした一週間。私は想像していた以上の多くの経験をすることが出来ました。生活や文化が異なっても，人と人とは仲良くでき，本当の「家族」のような存在になることが出来るということを知りました。マインブルクは，「また絶対に行きたい！」と思う素敵なところでした。来年はマインブルクの派遣団を迎え入れる年なので，その時に今回のホームステイで学んだことを生かして，そしてさらに上達した英語とドイツ語でおもてなししたいです！

私がドイツで挑戦したこと

茨城県立
並木中等教育学校
中学３年　綿引悠人

ドイツに行く前は，ホストファミリーと英語でいろいろなことを話せるようにしたいと思っていました。

実際に行ってみると，ドイツ人は英語をすらすらと話すことができるため非常に驚きました。私の完ぺきではない英語でもすぐに理解してくれて，話しやすかったです。

また，ドイツでお好み焼きを作りに挑戦しました。日本でお好み焼きの練習をした時は生地をひっくり返す時に，失敗することが多く心配でしたがほとんどのものは形がくずれず，安心しました。

ホストファミリーの紹介

私がお世話になったホストファミリーは，４人家族でした。

ホストファザーは，私が持って行った猪口を置く台のことをフリスビーだとジョークを言って，よくみんなを笑わせてくれました。

ポーランド人のホストマザーは，買い物に行く際に欲しいものの写真を見せたら，たまたまそれがポーランドの言葉で書かれていたため，とても喜んでくれました。また，お店に行ったとき，どれが良いのかを教えてくれました。

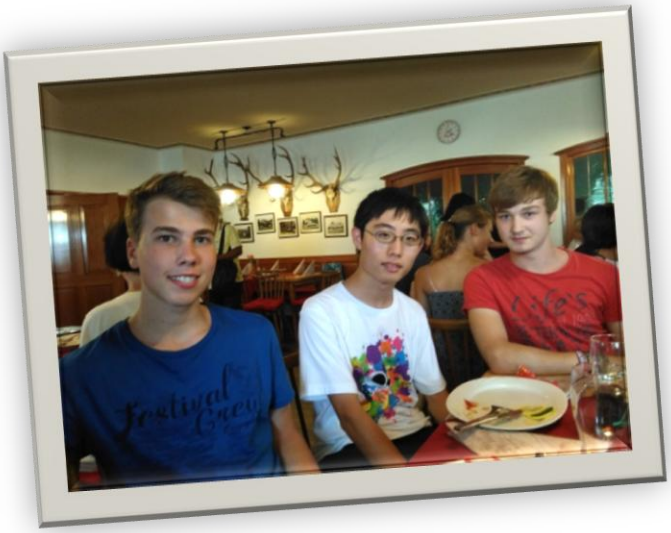
19 歳の Stefan は，いろいろなところへ連れて行ってくれました。そして，その建造物の特徴や歴史などのことをたくさん教えてくれました。また，博物館では，装置の仕組みやドイツの偉人について教えてくれました。その他にはジョークなどが書いてある画像をインターネットで探して見せてくれました。

16 歳の Lukas は，よく話しかけてくれ，日本の学校とドイツの学校のことや将来何になりたいかなどをよく話しました。また，私が持って行ったけん玉や駒もとても喜んでくれ，よく遊んでくれました。また，ドイツの文化で私が分からないときは教えてくれました。

大変だったこと・失敗したこと

初めは，事前に用意していた話題で話すことができましたが，用意していた話題がなくなると何を話せばいいのか困ってしまいました。そのため，日本の写真などをもう少し用意しておくべきだったと思いました。

また，ドイツの偉人の像がたくさん置いてあるところに行ったときに，そこに書いてあった偉人について教えてもらいました。しかし，ドイツの偉人についてあまり知らなかったため，日本にいる時にドイツの偉人についてもある程度調べておき，どのようなことを教えてくれているのかもっと分かるようにしておくべきだったと思っています。



日本とドイツの違い

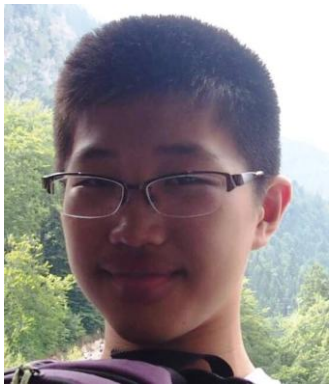
私がマインブルクに行って最も驚いたことは，ドイツの人の多くが英語をすらすら話すことができるということです。ドイツは日本と同じように，英語は母国語ではありません。母国語はドイツ語です。それにもかかわらず，英語をすらすら話すことができるということに驚きました。例えば，博物館に行ったときには，この仕組みがどのようなものかが分かる装置を英語で説明してくれました。また偉人の像を見たときに，それぞれの人物について簡単に英語で説明してくれました。物理や歴史などのことを第二外国語である英語で説明するのは難しいことだと思いますが，それを英語ですらすらと説明してくれたためとても驚きました。

また，文化が日本とドイツでは，全く異なると思っていましたが，日本とは異なることはあったけれども，日本と共通点が多いことに少し驚きました。ドイツは環境に対する意識が高く，自然エネルギーの利用やごみの分別を盛んに行っていると聞いたことがあります。そのため，今回ドイツで自然エネルギーを利用しているところや，ごみの分別を行っているところを見たいと思っていました。

最初にドイツで自然エネルギーを利用しているところを見たのは，空港からマインブルクに行く時でした。バスの外を見ると，風力発電や太陽光発電の施設がたくさん並んでいて，とても驚きました。もう一つのごみの分別については，機会に恵まれずなかなかなか見ることはできませんでしたが，飲み物を買いに行った時に見ることができました。日本と比べて，飲み物が高いことについて不思議に思いましたが，ホストファミリーが飲み終わった瓶を返したら，１ユーロ返金されていました。リサイクルをするとお金が戻る仕組みになっており，ドイツが環境のことを考えている国だということを少しですが体験することができました。

私は母国語でない言葉を使い，コミュニケーションができるホストファミリーと過ごして，日本でももっと英語を話せるような勉強が必要だと思いました。そして私も英語をもっと勉強し，ドイツ人に負けないように英語を話せるようになりたいと思います。また，ドイツに限らず，いろんな国の文化や考え方にふれ，良いことをどんどん取り込んでいきたいとも思いました。

私がドイツで挑戦したこと



守谷市立
御所ヶ丘中学校
3 年　太田悠樹

私はドイツで会話してみることに挑戦しました。
向こうの人達とメールや SNS でホームステイ前から交流をしていたおかげか，片言の英語だけでも話をすることが出来ました。それから難しい英語をあまり使わずに話してくれたことも私が意思疎通できた理由だと思いました。しかし，ホストファミリーの同士がドイツ語で話しているところを聞き取れるか挑戦しましたが，どんな事を言っているのかを聞き取ることは出来ませんでした。

ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは五人家族でした。
ホストファザーはどこの家でも忙しい時期のようで，あまり会うことがありませんでしたが，とても優しかったです。
ホストマザーは遊びに行く時には，毎回車を出してくれ，とても気遣いをしてもらいました。少し日本語を覚えていたので本当に困った時には辞書とスマホと覚えていた日本語を駆使して話してくれました。
オリビアは初対面でのイメージでは大人びているなぁと思ったものの，だんだんと打ち解けていくと，とても元気で活発な子でした。そのおかげで周りからは『暴走一家』と言われるほど，私も元気いっぱいに楽しく過ごすことができました。
ローマンはゲームが大好きで，ゲームをみんなでやって打ち解けさせてくれました。
シエナーは，いつも楽しそうに過ごしていました。

大変だったこと・失敗したこと

私はホームステイ先で積極的に感情をうまく伝えることが出来ていなかったのではないかと思っています。
他の団員と比較したわけではないので，感覚的にとなってしまうのですが，それが失敗だなと思いました。

ドイツでの様々な出来事

私はドイツに行ってまず，色々なことに驚かされました。

ホストファミリーの家に行って初めに驚いたことは，地下に部屋があった事です。地下室というと，かっこいいイメージがあり，案内してもらうときはとてもワクワクしていたのですが，想像していたのと違って普通の部屋だった時の驚きは未だに忘れられません。

また，早起きの基準が違った事も驚きました。ホストファミリーの家にお世話になった初日に，翌日の予定を確認した時，「朝 6 時に起きて。とても早いけど大丈夫？」と聞かれました。私のホームステイ先の家族だけかもしれなませんが，ドイツでは 6 時に起きることが早起きに当たることにと驚きました。初日のだけでもこのようにたくさんの驚きがありました。

また，私はドイツで蜂が多いことに驚きました。お店の売り物のパンの上に蜂がいて「えっ！！これ大丈夫なの？」と思いました。また，蜂に刺されることもありましたが，特に問題なくドイツで生活することが出来ました。

皆でやったゲームも印象的でした。言葉も通じなければ，ゲームの説明も読めない，そんな状況でしたが，皆でやったゲームはとても楽しかったです。そうして過ごした日々を思うと，言葉の壁はあっても通じるものだなとすごく実感しました。

私は今回ドイツに行ってとても良かったと思います。

なぜなら，たくさんのことをドイツで実感し，この海外派遣で「日本では体験できないようなことを体験したい！」という目的を達成する事ができたからです。

私がドイツで挑戦したこと

守谷市立
守谷中学校
2 年　横張日菜子

買い物をするときに，店員さんが「Hallo！」（こんにちは）や「Tschüss！」（じゃあね）と声をかけてくれたので，私も「Danke schön！」（ありがとう）と大きな声で伝えるようにしました。また，食べたことのないものを食べ，知らないものは「What’s this?」と聞き，たくさん話すことを心がけました。出かけた時には電子辞書をなるべく使わずに自分の意思を伝えました。

ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーはお父さんの Karsten，お母さんの Bianca，二人の子どもの Jasmin，Jonas，Janina の 5 人家族でした。家族の仲が良く，ホームステイ中子どもたちが喧嘩をする場面は全く見られませんでした。

お父さんの Karsten は写真好きでたくさんの写真を撮ってくれました。

お母さんの Bianca はとても優しく，私と会話をするときには翻訳アプリを使わず私が理解するまで英語で伝えてくれました。

Jasmin は同い年とは思えないほど大人っぽく，とても優しくしてくれました。また，来年守谷に来たいと言っていたので楽しみに待っています。

Jonas は一緒にいる時間が短かったけれど，英語で話しかけてくれて嬉しかったです。笑顔が素敵でした。

Janina も一緒にいる時間が短かったけれど，一緒にレゴで遊んだり，目を合わせてふざけあったりと楽しく過ごせました。

大変だったこと・失敗したこと

最初に，私が大変だなと感じたことは英語の会話です。学校では英語の授業がありますが，英語の聞き取りがほとんどないので，何を言っているか理解して答えるということが非常に難しかったです。しかし，3 日目頃から単語くらいは聞き取れるようになり，楽しく過ごすことができました。

次に，バーガーとピザの食べ方です。私はバーガーやピザに食べ慣れていなかったため食べるのが遅かったり，ソースをこぼしてしまったりと食べ終わるまで大変でした。

好きなホストファミリーと過ごした日々

今回のドイツは初めての海外でした。

1日目，ホストファミリーに会ったとき私は英語を話す速さに驚き，聞き取れず何も話せませんでした。そして，私はあと7日間無事に過ごせるかとても不安になりました。しかし，ホストファミリーは翻訳アプリを使ったり，分かりやすく教えてくれたりし，私が理解するまで一生懸命に伝えてくれました。そのおかげで不安は自然となくなりました。また，3日目頃から英語の速さに慣れていきました。

さて，この八日間の中で特に楽しかった6日目を紹介します。

6日目は午前中のツアーの後，少し買い物をしてからプールへ行きました。買い物では初めてコインの使い方が分かり，とても嬉しかったことを覚えています。プールではスライダーにたくさん乗りとても楽しかったです。それから，「Warm！」と言われて連れていかれた場所が冷たい水の出る場所で，風邪を引きそうになりました。屋外の大きなプールでは日本でなかなかできない飛び込みにチャレンジしました。楽しくて数えきれないほど飛び込みました。また，屋内にあったプールでは波を体験できましたが，溺れそうになり，今思い出すと恥ずかしくて笑ってしまいます。この日は20時ごろまで遊んでいたので家に着いた時間が22時を超えていました。6日目だけではなく毎日が，時間がいくらあっても足りないくらい楽しかったです。

このようにたくさんの楽しい思い出を作ることができたのは全てホストファミリーのおかげです。ホストファミリーのみんなは，いつでも私を楽しませてくれました。フェアウェルパーティーでは，私が手紙を読んで泣いてしまった時，ホストマザーがステージに上がり，泣きながら「Are you ＯＫ?」とハグをしてくれました。また，ホストファザーと Jasmin も泣いていて，この家族と一緒に過ごせて良かったと心から思いました。それとともに帰りたくないという気持ちが大きくなりました。

このホームステイは，私にとって今までで一番の経験とよい思い出になりました。このような機会を与えてくださり，本当にありがとうございました。

私がドイツで挑戦したこと

守谷市立
守谷中学校
2 年　稲本光希

ホームステイ先の子とドイツ語のお料理レシピを日本語に訳しながら一緒に料理し，家族に食べてもらいおいしいと喜ばれました。憧れていたドイツの民族衣装を着せてもらいました。私が着たものは赤と緑のクリスマスカラーで細かい刺繍もしてありとても可愛いらしいものでした。着るとまるで童話に出てくる女の子の気分になりました。また，恋人がいるかいないかによってスカートのリボンを結ぶ側が違うことも教えてもらいました。

現地の人と少しでもコミュニケーションをとれるように積極的に話しかけてみました。

ホストファミリーの紹介

私のお世話になったホームステイ先はお父さん・お母さん・15 歳の長男・13 歳の長女・12 歳の次男・9 歳の次女の 6 人家族でした。

お父さんは私が坂道で歩きにくそうにしているとそっと手を差し伸べてくれるような紳士的な人でした。

お母さんはいつも優しく微笑んでいて周りを和やかな雰囲気でした。

兄弟四人はとても仲が良くて，上の子たちは下の子たちの面倒をよく見ていました。

長男のマニーはやさしくて，私がドイツ語で困っているとそっと声をかけてくれました。

長女ベルナは歴史が大好きな女の子で，日本の文化や歴史についても色々勉強していました。

次男グストルは面白い子で，最初緊張していた私を変顔やオーバーリアクションなどでいっぱい笑わせてくれました。

次女リディアは元気いっぱいの明るい女の子で，いつも私に抱きついてきてくれました。家族仲がとても良く，フレンドリーで素敵な家族でした。

大変だったこと・失敗したこと

失敗したことは，レストランでメニュー表が読めず自分の苦手な料理を注文してしまったことと，買い物をするときにお金の出し方が分からず，大きい金額のお札を出してしまいおつりが全部コインで返ってきてお財布の中がコインでいっぱいになってしまったことです。

大変だったことは，人の顔（特に男の子）の見分けができず，ホストファミリー以外の人の顔と名前がなかなか覚えられなかったことと，初めは英語が良く聞き取れなくて，言われていることがリアルタイムで理解できなかったことです。

ホップがくれたキセキ

「世界はこんなにも広かったのか！」

守谷を旅立ってマインブルクでのホームステイ中に，私は心の中で何度もそう叫びました。見るもの，聞くもの，食べるもの，感じるものすべてが新鮮で，まるで自分の目の前の視野が明るくパーッと広がっていくような感じがしました。

ホームステイ前は，期待よりも語学力不足などの色々な不安の方が大きかったけれど，ミュンヘン空港に降り立った時，大勢の出迎えに来てくれたマインブルクの人たちの笑顔と「ようこそマインブルクへ」と日本語で書かれた大きなボードを見た瞬間，不安はすべて吹き飛んでいきました。

また，空港からマインブルクへ移動する時に突然小さな女の子が私を見て，嬉しそうな笑顔で駆け寄ってきてくれました。そしてまるで仲良しのお友達のように私の手を握って，バスまでの道のりの間ずっとドイツ語で話しかけてくれました。私は話しかけてくれている内容はあまり分からなかったけれど，歓迎してくれている気持ちを感じられてとても嬉しかったです。

マインブルクに着くと初めてホストファミリーと対面しました。初めて会う人との対面に緊張していた私ですが，ホストファミリーは優しい笑顔でとても自然に，まるで家族の一員のように私を迎え入れてくれました。そして，私にとって忘れられない素敵な思い出をくれました。本当に心から「DANKE」（ありがとう）と言いたいです。

また，この海外研修で得た守谷の仲間達との絆はかけがえのないものです。フェアウェルパーティーでのちょっとしたハプニングを上手く回避できたのは，出発前からの研修等で積み重ねてきた仲間への信頼感があったからこそだと思います。

このホームステイを通して，自分にとって今まで遠い存在だった国際交流がとても身近に感じるようになりました。守谷市とマインブルクはホップがきっかけで交流をすることとなったと聞きました。そして，マインブルクで交流のきっかけとなったホップ畑を見てきました。ホップがくれた守谷市とマインブルクとのつながりをマインブルクで見たホップ畑のように大きく立派に成長させていけたらといいなと思います。

私がドイツで挑戦したこと

守谷市立
愛宕中学校
2 年　茂田楓華

私はドイツに行ったら家庭料理を食べたり，作ってみたりしたいと思っていたので，Lea のおばあちゃんの家に行ってバイエルンの伝統料理を教えてもらいました。ローストポーク，クネーデルとザウアークラウトを一緒に作りました。クネーデルは細かくしたパン，卵，牛乳と小麦粉を混ぜて丸めた後，30 分くらい茹でました。お肉に添えてソースをつけながら食べました。食感はもちもちしていて日本では食べられないおいしさでした。

ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーの Bachner ファミリーはお父さん，お母さんと 3 人兄弟の 5 人家族です。庭でうさぎを 2 羽飼っています。

お父さんの Klaus はミュンヘンの BMW で働いています。いつも私のことを気にかけてくれました。

お母さんの Sonja は幼稚園の先生をしています。ランチの時，緊張している私に英語で優しく声をかけてくれました。

ホームステイ中，ドイツのいろいろなことを教えてくれ，いろいろな場所に連れて行ってくれた Lea にはお姉さんと弟がいます。

お姉さんの Lisa は 27 歳で学校の先生になるための勉強をしています。ホームステイ中は 2 日間しか一緒に生活できなかったけれど，とても優しいお姉さんでした。

弟の Nico は 16 歳で，車屋のアルバイトをしているので，一緒に出かけることは無かったけれど，私がプレゼントを渡したらとても喜んでくれました。

Lea は 18 歳でいつも私と一緒に行動してくれました。去年，ホームステイで守谷市に来ていて，日本語の勉強もしていて簡単な会話もできました。

大変だったこと・失敗したこと

初めての長時間のフライトや時差，緊張などもあり 3 日目に体調を崩してしまいました。その日は朝からノイシュヴァンシュタイン城のツアーがあったので，大変でしたが，お城の見学コースでは団員のみんなが声をかけてくれたり，荷物を持ってくれたりして，城に着く頃には徐々に具合も良くなり一緒に見学することができました。

また，お父さんはドイツ語しか話せずいろいろ話しかけてくれましたが，私はドイツ語が分からなかったため，なかなか会話ができませんでした。もう少しドイツ語も勉強したいなと思いました。

私の新しい世界

「ドイツでたくさん友達をつくってきます！！」これは私が壮行会で話したホームステイの目標です。出国の日，待ちにまったドイツだ！という気持ちと同時に，きちんとコミュニケーションがとれるか不安な気持ちがありました。ミュンヘン空港に着くとマインブルクの市役所の方やホストファミリーが「ようこそマインブルクへ」と書いたプレートを持ち待っていてくれました。みんな明るい笑顔で迎え入れてくれて 12 時間の長いフライトの疲れも吹き飛びました。

ホストファミリーとはドイツに行く前からメールでのやり取りをしていて，ホームステイ中の予定などをたくさん教えてもらっていましたが，直接会って話すと想像以上に優しい人たちばかりでこれからの 1 週間が楽しみになりました。ホストファミリーとはお城へ行ったり，散歩をしたりしながら教会巡りをしました。私が行った教会の周りは自然に囲まれていて，少し歩くとホップ畑が広がっていました。お城は高い山の上にあり登るのがとても大変でしたが，上からの景色は日本では見られないとても素晴らしい感動的なものでした。

他にはショッピングやプールへ行ったり，ＢＢＱをしたりした日もありました。ＢＢＱの日は Lea や弟の Nico，いとこの Anna たちとだるまさんが転んだ，隠れ鬼ごっこをしました。そして，お互いの国のじゃんけんを教え合いました。ドイツに着いてからあっという間に時間が過ぎ，フェアウェルパーティーの日になってしまいました。みんなでゲームをするのが楽しくてずっと笑いの絶えない時間でした。けれど，Lea に感謝の手紙を読んで渡した瞬間，この数日の思い出がよみがえり，涙があふれてきました。

私の目標だった「たくさんの友達をつくる」は，まず自分から話しかけて，その英語がうまく伝わらなくても，一緒に写真を撮ったり遊んだりすることで仲を深めることができたので，少し達成できたような気がします。日本に居る時は英語が伝わらなかったらすぐに話すことを諦めていたけれど，このホームステイを通して，相手に伝えようとする言葉や気持ち，ジェスチャーも大切だということを感じました。

この 1 週間で私はたくさんのことを学び，最高の思い出を作ることができました。この経験をこれからの生活に活かし，もっとドイツ語も勉強してホストファミリーに会いにまたマインブルクへ行きたいです。

私がドイツで挑戦したこと

守谷市立
御所ケ丘中学校
2 年　岡田千穂

ドイツで挑戦したことは，日本の文化をホストファミリーに伝えるということです。お土産には扇子や手ぬぐい，煎餅を持って行きました。扇子はすごく気に入ってくれて次の日から使ってくれました。

また，日本のお茶を作って茶道をやったりカレーも作ったりしました。この二つはどちらも好評でカレーは普段作ったりしないけど，日本人がよく食べるものなので作ってみました。日本のことにすごく関心を持ってくれたのでよかったです。

ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーはエッカ家で，ホストマザーの Elfriede と，ホストファザーの Anton，ホストブラザーの Anton，ホストシスターの姉の Theresa，私と同い年の Sophia です。Elfriede はとても優しい人です。

私がすごいなと思ったことは，ドイツの街中でおばあちゃんがカートを段差に持ち上げることができなくてそこに私のホストマザーが走って助けてあげていて，とても心がきれいで優しい人なんだなと思いました。

Anton はとても面白くてみんなを笑わせるような存在です。私はいつも Anton の言葉に笑っていました。Anton と Theresa は二人とも働いていてあまり会う事ができなかったけど，二人ともきれいで優しかったです。最後に Sophia は静かだけど，私が話しかけたり，話が合うと，たくさんしゃべってくれたりしてくれて楽しかったです。

大変だったこと・失敗したこと

大変だったことは，途中まで飲み物が炭酸水だったことです。私は炭酸水が苦手で途中までずっと我慢していたけど，ホストファミリーに炭酸の入っていない水が欲しいと伝えました。お水を用意してもらってからは，最初から言っておけば我慢する事もなかったと思いました。このように自分の気持ちをはっきりと言えばホストファミリーも分かってくれると思うのでこれからは自分の気持ちをはっきりと伝えようと思います。

人生の宝物

今回，私はこの海外派遣でたくさんの事を学びました。私はドイツへ行く前，言語が違う世界に一人でホームステイする事がとても不安でした。私は英語に自信がなかったので，ドイツに行く前は「ちゃんと通じるかな？」と，いつも弱音ばかり吐いていました。そのまま日本を旅立ち，ミュンヘン空港に着き，バスに乗っている途中のドイツの風景は全く日本と違うもので，人形が住んでいそうな家や，大きな建造物，それとマインブルクにはたくさんのホップを見て，「ここはドイツなんだ！」と改めて実感しました。市役所にはお母さんの Elfriede と私と同い年の Sophia が出迎えてくれました。そのまま家に帰りホームステイが始まりましたが，その時には不安よりも楽しみの方が大きくなってきました。

翌日は市長への表敬訪問があり，その後は体調を崩してしまい一日ずっと寝ていました。「ホストファミリーに申し訳ないな。」と，思っていたけど，ホストマザーが心配してくれて「寝ていていいよ。」と，言ってくれたり，薬もくれたりしたので，凄く嬉しかったです。

3 日目は，ずっと行きたいと思っていたノイシュヴァンシュタイン城に行くことができました。その日も私は体調が良くなかったので，お母さんや，団員のみんなや大平さんが心配させてしまいましたが，見学をするにつれて，少しずつ元気になりました。

4 日目，5 日目，6 日目，7 日目は，各自のホストファミリーと過ごす時間でした。私のホストファミリーはドイツの色々な街に連れて行ってくれて，その街について教えてくれたり，事前に水泳が好きだという事を伝えたら，大きなプールに連れて行ってくれたりしました。そこにはすごく楽しそうなウォータスライダーがいくつもあって，ホストシスターとたくさん滑ったのが楽しかったしいい思い出になりました。

今回の海外派遣を通して私が学んだ事は，自分から積極的に話しかけるということです。言語が違う世界に行っても，ジェスチャーや文法がグチャグチャでも知っている言葉をつなげてしゃべれば，ホストファミリーも分かってくれたし，もし分からなくても一緒に分かろうとしてくれました。なので，自分の言葉で，まずは何でもいいから話しかけることが大切だと思いました。最後のフェアウェルパーティーでは笑顔で思いを伝えられたので良かったです。最終日のお別れはとても辛かったけど，マインブルクの人たちはみんな優しくていつも笑顔だったので，またマインブルクに行きたいと思いました。来年は私の家にぜひ来ていただき，日本の良さを教えたいです。

私がドイツで挑戦したこと

守谷市立
愛宕中学校
１年　沼田百音

私がドイツで挑戦したこと，それは，現地の人達と積極的に話すことでした。私はいつも完璧な英語で話そうとしてしまい，うまくいきませんでした。

ホストファミリーと話す時，初めは相づちを打つのに精一杯でしたが，一緒に過ごしていくうちに，自分について話し，What’s this ? など，身近な事柄について話すなど，きっかけを作ることが出来ました。

ホストファミリーの紹介

私がお世話になったホストファミリーは，シェーンフーバ家です。お母さんのヨーハナと娘のヴァレンティーナは仲のいい親子で，キッチンで水をかけあったり，笑いあったりしているところを沢山見ました。犬のロッタも大切な家族の一員です。

ヨーハナは，私達の本当のお母さんのようで，とても優しかったです。朝早く起きて，朝ご飯やちょっとした軽食を作ってくれました。どれも美味しくて，お腹いっぱいになりました。特に，ドイツソーセージのホットドッグは絶品でした。

ヴァレンティーナは，17 歳です。日本が大好きで，守谷に来たことがあります。幼稚園でボランティアをしていて，友達も多く明るい性格でした。

シェーンフーバ家は親戚が多く，毎日のように色々な人が来て，たくさんの事を話す事ができ，楽しかったです。

また，ペンションを経営していて，私たちはその一室に泊まらせてもらいました。ドライビングスクールも家族で経営しています。

心の温かい素敵なファミリーでした。

大変だったこと・失敗したこと

ホストファミリーの言いたいことはわかっているのに，自分が言いたいことを英語で表現できない場面が多くて大変でしたが，ジェスチャーを使って乗り切りました。

また，家の中でも靴を履く生活や水が硬水のためシャンプーが泡立ちにくかったこと等，文化や環境の違いも大変でしたが，自分なりの快適な生活の仕方を見つけて過ごすことができました。

レストランに行くことが多く，メニューがドイツ語だったので，いつも同じ物や，お薦めしか頼めなかったので，ドイツ語をもう少しできれば良かったと思いました。

ドイツでのひととき

ドイツに行くことができると知った時，とても嬉しかったと同時に，こんな私で大丈夫だろうか，という不安もありました。しかし，研修を重ねて仲間と言葉を交わすうちに，そして，ドイツでホストファミリーと言葉を交わすうちに，不安は消えて，期待や楽しいという気持ちに変わっていきました。

ホームステイの初日に私はとても緊張してしまい，言われている事に対して，上手く言葉が出てきませんでした。でも，次の日，ホストファミリーのヴァレンティ―ナが学校の写真を見せてくれたのをきっかけに，私は自分自身について話すようになりました。家族，友達，部活，好きな事…。ホストファミリーのみんなは，私の話にいつでも耳を傾けてくれました。「How do you mean?」 と聞かれた時は，英語で説明し直すのに苦労しましたが，言葉だけでなく，ジェスチャーや表情でも伝えることが出来ると実感しました。最後には，他の団員がお世話になっているホストファミリーとも仲良くなり，英語で冗談を言って，笑い合えるようになりました。

ホストファミリーにカレーライスを作ってあげたことも忘れられない思い出です。その時は，おじいさん，おばあさん，親戚のおじさんも来てくれました。日本からカレールーとご飯を持参し，肉と野菜は，現地で買いました。日本とは大きさも，売り方も全く違うので，その中で，英語で買い物をすることはとても難しかったです。でも，みんながカレーを 5 回も 6 回もおかわりをしてくれて，とても嬉しかったです。

フェアウェルパーティーでは，みんなで考えたゲームも「What we like show！」も大盛り上がりでした。サンキューメッセージでは，今までの思いがこみ上げてきて，泣いてしまいました。でも，その後は，ショーで披露した剣道で使用したおもちゃの竹刀でみんなとはしゃいだり，吹奏楽団のサプライズ演奏を聴いたりして，楽しい最後の夜になりました。

そして，出国日を迎えました。空港では，ホストファミリーが最後の最後まで手を振ってくれて，私はここでも胸がいっぱいになり，泣いてしまいました。

私にとってこのホームステイは一生の宝物です。英語やドイツ語をもっと学んで，またマインブルクに行きたいです。また，今度は私がホストファミリーになって，日本での良い思い出を沢山作ってあげたいです。最後に，今回の派遣で支えて下さった多くの皆さんに本当に感謝します。

Danke！

私がドイツで挑戦したこと

守谷市立
けやき台中学校
１年　長縄真凜

私がドイツで挑戦したことは，出された食べ物は一口でも食べること，辞書などに頼らず思い切って話すことです。

ドイツに行く前は，自分の英語力だけでコミュニケーションをちゃんととることができるか不安でしたが，思っていたより知っている単語を使って相手が話してくれたり，あなたの伝えたいことはこれかな，と聞いてくれたりしたので安心して話すことができました。

また，知らない食べものも一口食べてみるとおいしいものが多かったのでよかったです。

ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは，Falke 家で５人家族のとても元気で楽しい家庭です。

お父さんは，Johannes（ヨーハネス）さんです。優しく明るい人です。普段はお仕事が忙しいようですが，日曜日に昼食を作ってくれました。

お母さんは，Madeleine(マドレーン)さんです。楽しい事が好きな人です。最近は日本に興味があり，日本語の勉強をしているそうです。コスプレと日本のマンガが大好きと言っていました。

3 兄弟の 1 番上が Olivia（オリビア）さんです。手先が器用で，日本の文化が好きな人です。Olivia も日本のマンガが大好きで，部屋に沢山並べてありました。

2 番目が Roman(ローマン)さんです。ゲームが大好きな人です。Roman はマンガとマインクラフトが好きで，部屋中がマインクラフトでいっぱいでした。

1 番下が Sienna（シエナー）さんです。彼女は 1 番元気で，いつもみんなを笑わせてくれます。かわいいものや，レゴが好きな人です。

大変だったこと・失敗したこと

大変だったことは，そうめんとおにぎりを作る時，キッチンのどこに何があるかがわからないまま作り始めてしまったことです。途中で聞こうと思ったけれど，英語で何と言うのかわからないものが多くて，伝えるのがたいへんでした。

失敗したことは，オーストリアに行く日にカメラも携帯も持っていくのを忘れてしまったことです。ちゃんと忘れ物がないか確認すれば記念写真が撮れたのにと思いました。

優しく明るい国ドイツとの出会い

私が今回の事業で印象に残っている出来事は，ミュンヘンの空港に着いたときのことです。税関を通った先に私のホストシスターの Olivia が私の名前が漢字で書いてあるウェルカムボードを持って待っていてくれました。初めての国で私は少しドキドキしていましたが，そのボードを見た瞬間，「私を歓迎してくれているんだ！」と思い嬉しくなりました。

私のホストファミリーが連れて行ってくれた場所で一番の思い出になったところは，2 日目に行った町です。大きな公園がある，古い町でした。この町で私は，バナナカレーチョコレートを勧められ食べてみたのですが，チョコレートの中にカレーが入ったものでとても衝撃的でした。町を歩いた後に，公園に行きました。今まで行った公園の中で一番広く，とても静かでした。

この日は，たくさんの人があいさつをしてくれました。この町だけでなく，マインブルクや他の町でもみんながあいさつをお互いに交わしていたドイツはみんながあいさつを大切だと思っている国なのかなと感じました。

帰国日の前日に行われたフェアウェルパーティーは，今日が最後の夜だと思うと少し寂しかったけれどいつもよりもたくさんホストファミリー達と会話することが出来て，よかったです。派遣団員からホストファミリーへの感謝の気持ちを表現するためのショー『What we like』は，「とても面白かったよ」みんなに言ってもらえて，楽しんでもらえてよかった，いろいろと改良しながら練習してきてよかったと思いました。他のホストファミリーの人達ともたくさん話して一緒に笑う事も出来て，楽しい夜でした。

そして，帰国日がやってきました。空港についてから，飛行機が出発するまでの時間はとても短く，あっという間でした。ホストファミリーにさよならを言った後，すぐに保安検査をして，最後に大きく手をふり，日本に帰りました。

今回の旅は，私にとってとても大切な思い出になると思います。そして，またいつかドイツに行き，ホストファミリーに会いに行きたいです。

私がドイツで挑戦したこと

守谷市立
御所ケ丘中学
1年　下之園凌大

僕がドイツで挑戦したことは，主に二つあります。

一つ目は，日本での自分を捨てて，控えめのところを無くし，すべてのことに積極的にそして全力で臨むことです。

二つ目は，結団式で話したことではありますが，辞書やスマートフォンに頼らず，自力で問題への解決の糸口を見つけ，分からなくても黙り込むのではなく，身振り手振りで伝えるように努力することです。

その結果，何人かの新しい友達を作ることができ，今でもメールでやり取りを続けています。

ホストファミリーの紹介

僕がお世話になった家には，3 人住んでいました。先ず，マインブルク市の副市長であるハネローネさん。この方はとても優しく沢山の所に連れて行ってくれたり，日本の家族の事にまで気をかけてくれたりしてくれました。次に，旦那さんのゲオルグさん。この方は，英語が話せないので，直にコミュニケーションを取ることは難しいですが，いつも笑顔で接してくれました。3 人目は，息子さんのセバスチャンさん。この方は，楽器を演奏するのがとても上手で，特にフェアウェルパーティーの時の演奏が印象的でした。また，英語が話せたので通訳的存在でもありました。

ハネローレさんには孫が居て，二人は兄ベネディクト(13 歳)，弟アンドレアス(11 歳)と言います。スポーツ万能で，一緒に沢山のスポーツを楽しみました。更に，英語もでき会話が弾みました。そして，2 人の両親もセバスチャンさんと同じで音楽が上手で，フランス語も話せることに驚きました。

大変だったこと・失敗したこと

僕はかなり小食なので，食べ物の多さに驚きました。最初のうちは，あまりにも食べるのに時間がかかったので，ハネローレさんにとても迷惑をかけてしまいました。しかし，そんな時にも食べ終わるまでずっと待ってくれました。

また，ホストファミリーの起きる時間が遅く，朝 6 時に起きて，「グーテンモルゲン！」と言いながらリビングルームに入って行くと誰も起きてなかったので，7 時，8 時とトライしますが，結局 9 時にみんな揃いました。

未来への糧

先ず初めに，ドイツでの感想は率直に「あっという間で楽しかった！」です。

これは，ホームステイの期間だけでなく，事前研修も含めてすべての事についてです。

事前研修では，色々な講師の方々からアドバイスやメッセージを頂きました。その一つ一つのことが，ホームステイの時に活かされたのではないかと思います。記憶に残っているのは，ドイツ大使が守谷にお越しになられた際，質問をすることができたことです。これはホームステイに向けての自信になりました。事前研修で多くの事を学ぶ事で，ドイツに行くことが待ち遠しくなりました。

8 月 2 日の出国の日，僕は飛行機の中で，行きたいという気持ちと不安の両方がありました。最年少ということで，英語に自信がなく，自分の英語が通じるか心配でした。しかし，ドイツに着いて，飛行場でマインブルク市の皆さんが出迎えてくれたことがとても嬉しく，不安も吹き飛びました。

ホームステイでは，ホストファミリーに色々な場所に連れて行ってもらいました。絢爛豪華なお城，アウトバーンで 3 時間半かかって行った湖，ユニークな建物のあるビール工場，近くのプール，前からやりたかったテニスやサッカーも経験することが出来ました。サッカーではとてもハードなトレーニングを教えてもらいました。家では，家の庭で水風船を投げ合ったり，日本では公道では乗れないセグウェイに乗ったりと，とても楽しく過ごしました。また，ホストマザーの作る料理はとても美味しく，特にお昼御飯で食べたトマトを煮込んだシチューのようなスープが絶品で，思わずおかわりをしてしまいました。

他には，日本では高級車であるベンツがタクシーになっていることがとても驚きました。文化の違いとして，人とのコミュニケーションの仕方が日本とは大きく違うと感じました。知らない人でも声をかけてきたり，お店の人が声をかけてきたりして驚きました。日本も，外国からの旅行者も増えてきているので，見習うべきところがあると感じました。

また，ドイツでは，エコに対する意識がとても高く，例えばソーラーパネルや風力発電が沢山設置されていました。ドイツでは，福島第一原発事故を受けて脱原発を果たしたと聞きました。僕は，このように他の国で起きてしまった失敗から学ぶ関係で世界があれば良いと感じました。

最後に，僕はこの事業に参加できたことを誇りに思います。この経験を活かして，将来は世界で活躍できる，そんな人になりたいです。

青少年と過ごした今年の夏

2017 年青少年海外派遣事業　団長　猪瀬 雅俊

面接で選考された中高生 12 名と事前研修で初めて顔を合わせてから，あっという間に 2 か月が経過しました。

最初に彼らに会った際，「大丈夫かな？」「本当にホームステイに行きたいのかな？」というのが，率直な私の第一印象でした。しかし，これらは完全な杞憂に終わりました。

ほとんどの子供たちは，「海外は，初めて」「ホームステイも初めて」ということで，「不安」がそのようにさせたのではと考えました。

事前研修が進むにつれ，また MIFA 小川会長，先輩派遣団員等の講話，また旅行社・Louisa さんの現地事情説明等を聞き，ドイツ語の日常会話練習をしてゆく中で，この心の中の不安が少しずつ減少し，期待と積極性に変わっていったように感じられました。　また，現地「送別会」での遊び・ショーの練習を重ねる中，団員の協調性も醸成されていったように思います。

Mainburg に入ってからも，必ずしも十分でない体調の中，それぞれのホストファミリーと上手く交流を始めたようで，2 日目夕方のバーベキューでは，子供達が「いつもの友達と遊んでいる」ような光景を目にしました。

子供達の対応力の速さに驚くとともに，日毎に「たくましく」なってゆく姿に感心しました。

今回の Mainburg でのホームステイは，子供達にとって，いつもの夏休みには経験できない貴重な時間であったと思います。送別会のスピーチで，私は，青年時代の初めての海外一人旅について話しました。親元を離れ，一人で生活した体験談ですが，この経験は，その後の私の人生において最も影響を受け，結果として自信をもたらしたものでした。今回のこの経験は，今後のそれぞれ個々の人生において，一つの大きな転換点となったものと確信します。これからは，守谷市国際交流協会（MIFA）の催し物，或いは他の国際交流事業等に積極的に参加し，さらに国際感覚を磨いて欲しいものです。 3 年後の 2020 年には，東京オリンピックが開催されます。個々の活躍の場は，沢山ありますよ。

当該「青少年海外派遣事業」は，守谷市在住の青少年に海外での生活体験の機会を提供するプログラムであり，参加した青少年のその後の人生に多くの良き影響をもたらしている事業であると考えます。

今回，当該事業を主催された守谷市，全面的な支援をいただいた守谷市国際交流協会（MIFA），その他種々ご協力をいただきました関係各位に感謝の意を表します。

最後に，当該事業の更なる発展を祈念し，結びの言葉と致します。

“All the best for you.”

2017 年青少年海外派遣事業　引率　大平　妙

外国の家庭でホームステイをすることは，お世話になる側，お世話する側の双方にとって，大きなエネルギーを必要とします。最善と思われる準備をし，心を尽くすことは人との交流の場において最もシンプルであると同時に，難しいことでもあります。

研修の一環として参加したドイツ大使講演会では，大使から「ポピュリズムに流されることなく，自分で学んだことを通じて物事を判断できるようにしっかり学びなさい。」という言葉をいただきました。次に，守谷に暮らす外国人市民からは，外国人は何も外国ばかりではなく，身近にもいること，マイノリティーならではの苦労，それを克服する努力や工夫について教えていただきました。また，海外派遣団員の先輩が世界を舞台に奮闘する話を直接聴く機会にも恵まれました。どのお話も，世界で生き抜くたくましさ，前向きさは多様化する現代において，いかに自分を助けることにつながるかを知るきっかけになりました。

マインブルクでは，日本にいる時より明るく，完璧に語学が話せなくてもコミュニケーションはとれるのだという自信を持ち，堂々としていた派遣団員の姿がありました。それは，初めて出会った時と比較し，はるかに成長しており，立派なものでした。事前研修では団長によるドイツ語レッスンとテストがあり，その成果もあって簡単なドイツ語で積極的に伝えようとする姿勢が見られ，好感をもって迎えられました。団長がドイツ語で話す様子を見て，その国の言葉を話すことは，相手への尊敬や文化への理解を示すことである，と肌で感じとった団員も少なくないことでしょう。

“All the best for you.”と言ってくれる人たちが遠く離れた国にいること。このことが人生を豊かにしてくれることに感謝し，近い将来，マインブルク市の皆さんに再会する時に，マインブルク市の皆さんがしてくれたように沢山のあたたかい気持ちを伝えられる準備をしておきたいと思います。そのあたたかい気持ちの輪を今回の派遣に参加した団長，団員の皆さんと共に守谷で拡げられたらと思います。青少年海外派遣がそのきっかけとなればこんなに嬉しいことはありません。

最後に，事業実施にあたり，支えてくださった国際交流協会の皆様，事業趣旨を御理解いただき団員をサポートしてくださった保護者の皆様，団員の募集から全面的に御協力いただいた学校の先生方，歓待してくださったライザー市長，そして良き理解者であるマインブルク市のシュレンマーさん，シェーンフーバさん，アングルフーバーさん，ホームステイ受入家庭の皆様，市役所の同僚に感謝申し上げたいと思います。

マインブルクの新聞に掲載された記事 ①

Japanische Gäste sagen „Sayonara“

Zwölf Jugendliche aus Moriya genießen eine Woche in der Partnerstadt Mainburg

Musik verbindet Völker. Das dachten sich auch die Mitglieder der Mainburger Jugend- und Stadtkapelle, die die japanischen Gäste mit einem Standkonzert überraschten.
Fotos: Stadt Mainburg

Von Harry Bruckmeier

Mainburg/Moriya. Nach gut einer Woche in der Hopfenstadt sagen die japanischen Gäste aus der Partnerstadt Moriya „Sayonara!“. Und die Gastgeber antworten mit einem nicht minder herzlichen „Auf Wiedersehen!“ Nicht zuletzt durch ihren Aufenthalt in ihren Gastfamilien lernten die zwölf Jugendlichen im Alter von zwölf bis 16 Jahren aus dem Land der aufgehenden Sonne viel von deutscher Lebensart und bayerischer Kultur.

Mit zweistündiger Verspätung ihres Fliegers kamen die jungen Japaner am Mittwoch letzter Woche nach einem Flug um den halben Erdball am Münchner Flughafen an. Trotz der späten Stunde ließ es sich Bürgermeister Josef Reiser nicht nehmen, seine Gäste nach deren anstrengender Reise persönlich zu begrüßen. Aufseiten der Gastgeber hatte Inge Schlemmer, im Rathaus unter anderem zuständig für die Städtepartnerschaften, das Besuchsprogramm organisiert. Sie begleitete die Gruppe auch auf allen gemeinsamen Fahrten.

Der offizielle Empfang im Rathaus ging am nächsten Vormittag über die Bühne, bei dem der Rathauschef erst einmal seine Stadt vorstellte und über seine eigenen Erlebnisse in Japan plauderte. Seit 1990 verbindet die niederbayerische Kleinstadt eine Partnerschaft mit Moriya, einer aufstrebenden City etwa 40 Kilometer vor den Toren Tokios. Nachdem einige der kaum

【日本語訳】

守谷市の派遣団とサヨナラ

国際姉妹都市の青少年 12 名が 1 週間マインブルクを満喫

日本の姉妹都市から来た海外派遣団にとっては「さようなら」と「Auf Wiedersehen」(“また会いましょう“）の時間が来た。12 名の日本人学生は 1 週間のホームステイを行うことでドイツやバイエルン独特の文化に触れることができたという。

到着の翌日にまず予定されたのは市役所の表敬訪問。ライザー市長は姉妹都市からのゲストを歓迎し，マインブルクについて語った。自分の来日経験にも触れながら楽しく対話する市長と派遣団。

ich auch die Mitglieder der Mainburger Jugend- und Stadtkapelle, die die japanischen Gäste mit einem Standkonzert über-
Fotos: Stadt Mainburg

Bürgermeister Josef Reiser (rechts) und seine Stellvertreterin Hannelore Langwieser (links) bedankten sich bei Masatoshi Inose und Tae Ohira, die die zwölf Jugendlichen aus der Partnerstadt Moriya begleiteten.

ausgeschlafenen Jugendlichen den Salvatorberg erklommen hatten, verbrachten sie den Rest des Vormittags in ihren Gastfamilien.

Reiseleiter der japanischen Delegation war Masatoshi Inose, der seine Gastgeber mit seinen Deutschkenntnissen überraschte. Er erinnerte an die Unterzeichnung des Vertrags über die Städtepartnerschaft vor mittlerweile 27 Jahren. Dem seien viele gegenseitige Besuche gefolgt und Freundschaften entstanden. „Wir haben die Unterschiede und die Gemeinsamkeiten zwischen unseren beiden Städten kennengelernt und verstanden. Das ist toll und sehr wertvoll für beide Seiten", sagte Inose, der fest davon überzeugt ist, dass sich die Bande zwischen den beiden Kommunen weiter verstärken werden.

Die Gäste aus dem Land der aufgehenden Sonne hatten ein ganz besonderes und mit viel religiöser Symbolik verbundenes Gastgeschenk mitgebracht. Ein Onigawara (dem Wort ogre für Fliesen entlehnt) ist eine Art Dachverzierung in der traditionellen japanischen Architektur, zu finden meist auf buddhistischen Tempeln. Diese Masken mit furcherregendem Aussehen haben verschiedene Bedeutungen. Insbesondere geht es aber um den Schutz des Hauses vor den Unbilden der Natur wie Sturm, Blitz, Hagel, Hochwasser usw. Die von hoch spezialisierten Kunsthandwerkern nach althergebrachten Techniken gefertigte Figur werde im Mainburger Rathaus einen Ehrenplatz bekommen, versprach Bürgermeister Josef Reiser.

Die Bedeutung des Hopfens, der letztendlich die Verbindung zwilich auf die Reise bis nach Japan geht, wusste die Hopfenbotschafterin zu erklären. Begeistert waren die Jugendlichen, als die Pflückmaschine für einen Probelauf kurz vor Erntebeginn in Betrieb genommen wurde.

Hiesiges Brauchtum und die besondere Bedeutung der Religion in Bayern stand auf dem „Stundenplan", als es am Freitag der Vorwoche auf einen Ausflug ins Alpenvorland ging. Natürlich durfte Neuschwanstein, das Märchenschloss des verträumten Bayernkönigs Ludwig II., auf dieser Tour nicht fehlen. Bekanntlich zieht das Bauwerk die japanischen Touristen magisch an, so auch die Jugendlichen aus Moriya, die schlichtweg aus dem Häuschen waren. Das herrliche Sommerwetter tat sein Übriges und bot beste Fotomotive mit Neuschwanstein als Hintergrund. In Steingaden wurde dann auch noch die Wieskirche besichtigt.

Das Wochenende hatten die Gastfamilien für ihre Schützlinge organisiert, ehe am Montag Regensburg angesteuert wurde. Auf einer Führung mit der „Stadtmaus" ging es unter anderem zur Steinernen Brücke, ins Alte Rathaus sowie in eine gruselige Folterkammer aus dem Mittelalter.

„Liebe Mainburger, vielen Dank für diesen unvergesslichen Sommer. Wir haben uns sehr gefreut, ein Mitglied Eurer Familie sein zu können. Hoffentlich sehen wir uns bald wieder!" Mit diesen Worten verabschiedeten sich die Jugendlichen am Mittwoch von ihren Gastfamilien, denen sie nach einer Woche ans Herz gewachsen waren. Nach einem Spaziergang durch die Münchner Innenstadt und Shoppen im Olympia-Einkaufszentrum hieß es dann am Flughafen endgültig Abschied nehmen, ehe sich die zwölf jungen Japaner wieder auf den Heimweg machten.

auch
erferien
hnuppern möglich

Gleichgesinnte, die in harmonischer Gemeinschaft ein abwechslungsreiches Training zur Kräftigung der

Die Polizei meldet

「27 年前，マインブルグ市と守谷市が姉妹都市契約に署名して以来，多くの青少年と大人がお互いを訪問していることで両者の相違点および共通点についての理解が深まった」と猪瀬団長がドイツ語で挨拶し，両市の関係が今後さらに継続していく願いを表した。

派遣団が記念品として選んだのは伝統と仏教を結ぶ，家を守る「鬼瓦」。マインブルク市役所で特別な場所に飾るとライザー市長が約束。

表敬訪問後，両市の架け橋となったホップについてホップ大使のマレーネ・ツェルナーさんによる説明を派遣団が受けることで「緑の黄金」の収穫から守谷市のアサヒビール茨城工場への輸出までのプロセスを楽しく学ぶことに。

金曜日に派遣団はバイエルン州ならではの習慣やキリスト教との深い関係について教わりながらルートヴィヒ二世のノイシュヴァンシュタイン城やシュタインガーデンのウィース教会を見学した。天気にも恵まれ，団員は遠足を楽しんでいる様子だった。

週末は各ホストファミリーで自由行動，月曜日は全員でレーゲンスブルクへ一日遠足した。帰国の日にミュンヘンを観光してから空港でホストファミリーとまた会う約束を交わしてから 2017 年の海外派遣団員がまた旅立った。

マインブルクの新聞に掲載された記事 ②

Japanische Jugendliche zu Gast

Seit mehr als 25 Jahren Städtepartnerschaft zwischen Mainburg und Moriya

Mainburg/Moriya. (hb) Zwölf Jugendliche aus Moriya waren eine Woche in Mainburg zu Gast. Die Teenager im Alter von zwölf bis 16 Jahren lernten viel von deutscher Kultur und bayerischem Brauchtum kennen. Untergebracht waren sie während ihres Aufenthalts in Gastfamilien, die sich rührend um ihre Schützlinge kümmerten.

Natürlich durfte auf der Reise ein Abstecher nach Neuschwanstein nicht fehlen. Das Märchenschloss von König Ludwig II. gehört bekanntlich zu den Sehenswürdigkeiten, die japanische Touristen besonders beeindrucken. Daneben besuchten die Gäste aus Fernost die Wieskirche in Steingaden und Regensburg, wo sie auf einer Stadtführung unter anderem die Steinerne Brücke, das Alte Rathaus und eine gruselige mittelalterliche Folterkammer zu sehen bekamen.

Die Wieskirche war ein Ziel der Jugendlichen aus Moriya in Japan, die eine Woche zu Gast in der Partnerstadt Mainburg waren. (Foto: Stadt Mainburg)

Seit mehr als 25 Jahren verbindet die niederbayerische Kleinstadt und die etwa 65 000 Einwohner zählende City vor den Toren Tokios eine Städtepartnerschaft. Das verbindende Element zwischen den beiden Kommunen ist der Hopfen. Das Grüne Gold aus der Hallertau ist bei den japanischen Braumeistern beliebt, so auch im Braukonzern Asahi, der in Moriya seine größte Produktionsstätte angesiedelt hat.

【日本語訳】

日本の青少年が来市

25 年以上の姉妹都市交流

国際姉妹都市の守谷市から中学 1 年生から高校 2 年生の青少年 12 名が一般の家庭に入り，バイエルンの文化と日常生活を体験しながら 1 週間ホームステイを行う。

滞在中の日程にはルートヴィヒ二世のメルヘン城やヴィース教会やレーゲンスブルクへの遠足などが含められている。

東京の付近にある守谷市とニーダ―バイエルンのマインブルクはホップを仲立として 25 年以上前に姉妹都市契約に署名。ハラタウ地方のホップは日本のビール工場に好評で，守谷市に拠点を持つアサヒビール茨城工場にも使われている。

編　集　後　記

今回で 27 回目となる守谷市青少年海外派遣事業。今回の派遣国はドイツのマインブルクでした。海外に行くこと自体が初めてという団員もおり，青少年の団員にとっては今までにないような体験や感動で価値観が変わったことと思います。

今年の派遣団員は，研修の初日のレクリエーションや休憩時間などで元気な姿を見せてくれました。また，慣れないドイツ語や英語といった語学研修，フェアウェルパーティー（お別れ会）でのショーの練習等に真剣に取り組む姿も見せてくれました。そういった団員達を見て，私たち担当は，国際交流を楽しむことと相手を思いやることができる子どもたちが団員に選ばれていることを再認識することができました。

実際に帰国した団員たちを出迎えた時，帰国報告会での各団員からの報告があった時，帰国後の事後研修の時，そのすべてのタイミングで，団員達が心の底から国際交流を楽しみ，国を超えた人と人の交流の素晴らしさを体感してきたことが伝わってきました。

団員の皆さんには参加した仲間との交流はもちろんのこと，遠く離れたマインブルクの新しい家族・友達との交流を続け，この体験が一夏の楽しい思い出ではなく，国を超えた素敵なつながりのきっかけであって欲しいと思います。そして，この事業で得た『心のふれあい』を忘れずに，次のステップに役立てていただき活躍されることを願っています。

最後になりましたが，団員の選考から研修までの御協力，市民を代表して子どもたちを引率する重責を担う団長を御選出いただいた守谷市国際交流協会の皆様に心から感謝申し上げます。

守谷市役所　生活経済部　市民協働推進課